

作家たちの見た

万博

1862
ロンドン

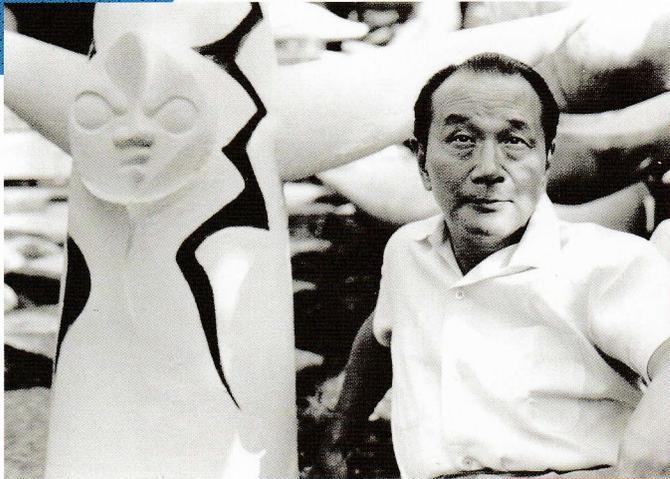


1900
パリ

1904
セントルイス



1970
大阪



- ・ロンドンの福澤諭吉。幕府遣欧使節団の一員として渡欧、開催中のロンドン万博を視察した(1862年 慶應義塾大学福澤研究センター提供)
- ・夏目漱石のイギリス留学前の記念写真。前列右が漱石。漱石はイギリスに向かう途中、パリに立ち寄り、万博を見物した(1900年 九州学院100周年記念歴史資料・情報センター提供)
- ・欧米に外遊していた頃の永井荷風。その滞在経験をもとに短編集『あめりか物語』を執筆、その中の1編「醉美人」にセントルイス万博が登場する(国立国会図書館「近代日本人の肖像」)
- ・岡本太郎と1970年の大阪万博のシンボルとなった「太陽の塔」の原型(1969年(株)現代芸術研究所提供)

2025 6.28(土)～
9.23(火・祝)

【開館時間】 9:30～17:00

【休館日】 月曜日(祝日の場合はその翌日 8月11日は開館)

【会場】 3階 文学常設展示室

【観覧料】 一般 310円(250円)
 高校・大学生 200円(160円)
 小・中学生 100円(80円)

※()内は20人以上の団体割引料金。

高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

小・中・高校生は、土・日・祝日と夏休み期間中は無料。

これまで世界各地で開催されてきた万博。福澤諭吉、
 渋沢栄一、夏目漱石、永井荷風、手塚治虫、岡本太郎、
 司馬遼太郎、谷川俊太郎、富士正晴、小松左京、遠藤
 周作、瀬戸内寂聴、柴門ふみといった作家や文化人た
 ちも実際に会場を訪れたり、企画に携わったりしな
 がら、その様子を小説や随筆、日記などに書きとめま
 した。今年の4月から開催中の大阪・関西万博にあわ
 せ、作家たちが万博をどう見てきたかを紹介します。

